

6月の技術対策（水稲）

平成17年6月1日
JAきたそらち・JA北いぶき
空知北部地区農業改良普及センター
雨竜西部地区農業改良普及センター

1 移植後からの水管理

移植後は、初期茎数の確保と生育を促進させる水管理が大切です。

表1 分けつ期間の水管理の注意点

時期	目標水温	水深	水管理の注意事項
活着期～ 分けつ期間	23 (昼間30 以上、 夜間15)	通常：4～5cm 低温・強風・晩霜が予想 される時：6～8cm (最上位展開葉の付け 根まで)	止水管理をする。 かんがいは夜間～早朝に 行う。 気象情報に注意し事前 に入水し水温上昇を促す。 水深10cmは分けつが抑制 される。

適正な水管理をするために水深測定板を設置しましょう。

2 適切な除草剤の使用について

除草剤使用の際は、雑草の種類・生育状況から薬剤を選定し適期・適量を守ることが必要です。

(1) 除草剤使用上の注意事項

除草剤の処理層を確実に作るために、散布時の水深は4cm以上とし、散布後4～5日は止水管理が可能な水深にして下さい。

使用時期は、代かき日～移植日まで5日間として設定しています。この期間が、5日より長くなったときは、その分処理時期を早めることが必要です。

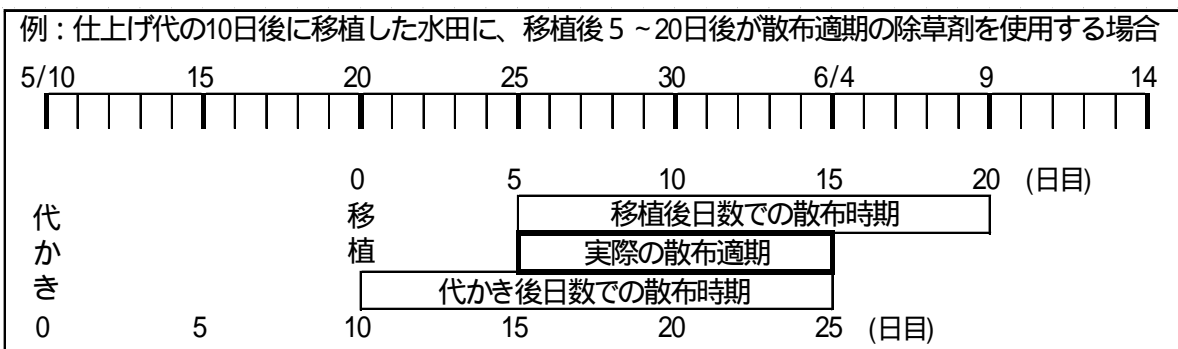


図1 実際の除草剤散布適期

(2) 難防除雑草、SU抵抗性雑草の防除

SU（スルホニルウレア）系除草剤に抵抗性を持つ雑草（ミズアオイ・イヌホタルイ・アゼナ類）が、近年増えています。前年、これらの雑草が残った水田では、非SU剤を含む除草剤の使用をおすすめします。

ただし、抵抗性のイヌホタルイを対象雑草とする場合、ヒエの葉齢に合わせて使用すると、取りこぼす可能性があるため散布時期は早めにする必要があります。

表2 SU抵抗性雑草及び難防除雑草の防除例

対象雑草	処理法	初期・初中期剤	中期・後期剤
ホタルイ ミズアオイ アゼナ	一発	ウリホス粒剤15 ウリホス1kg粒剤 ウエスフロアブル ハチクフロアブル スマートフロアブル	
	体系	ソルネット1kg粒剤 ショキニーフロアブル	マメットS M1kg粒剤 バサグラン粒剤・液剤
ミズアオイ アゼナ (ホタルイの残草 がない場合)	体系	シング乳剤 ソルネット1kg粒剤 草笛フロアブル ショキニーフロアブル	マメットS M1kg粒剤 バサグラン粒剤・液剤
	一発 (体系)	草笛フロアブル スパークスター1kg粒剤 ダイナマンフロアブル ミスターホームランフロアブル	残草がある場合 マメットS M1kg粒剤 バサグラン粒剤・液剤

除草剤の選択の際には、「平成17年度雑草防除ガイド」を参考にしましょう。

3 初期発生害虫の防除

発生予察を行い、より防除効果高めましょう。

表3 初期害虫の要防除水準と防除方法

害虫名	イネミズゾウムシ	イネドロオイムシ
加害部位	成虫：葉、幼虫：根	葉
時期	6月中旬～下旬	
要防除水準	株当たりの成虫寄生数 0.5頭内外	産卵最盛期(6月下旬頃)に、 株当たり平均2卵塊
耕種的防除	産卵に好適な条件をつくらな ために可能な限り深水を避ける。	



図2 幼形期の見分け方

4 不稔防止のために幼穂形成期の確認をしましょう

不稔の多発は、減収するだけでなく、蛋白含有率を高めません。不稔を防止するには、幼穂形成期から約20日間の水管理が重要なポイントとなります。平年の地域別・品種別幼穂形成期(表4)を参考に幼穂形成期5日前くらいからの観察が必要です。

幼穂の確認方法

平均的な生育の稲の主茎を根元から切り取り、基部をカミソリで縦切りにします。幼穂長が2mmに達した時を幼穂形成期とします(図2)。幼穂の形成されている主茎基部は丸くなっています。

表4 地域別・品種別の幼穂形成期(作況ほ平年値)

地域	空知北部地区			雨竜西部地区		
	深川市	妹背牛町	秩父別町	沼田町	北竜町	雨竜町
成苗品種別						
ほしのゆめ	6月25日	7月1日	6月30日	6月29日	6月28日	6月29日
きらら397	6月27日	7月3日	7月2日	7月2日	7月1日	7月2日

5 中干しと溝切りによるワキ(土壌還元)対策について

透水性が不良な水田・稲わらを春に鍬き込んだ水田は、地温の上昇に伴いワキが発生しやすくなります。ワキの発生は水稲の根を傷め生育を遅延させます。ワキの発生が激しい場合は中干しを実施しましょう。ただし、低温が続く場合は、中干しによって生育抑制が強くなります。天候やワキの程度を考慮し、田面水の入れ替えや中干し等を行いましょう。中干しは幼穂形成期前には終わらせましょう。